

～大阪市保育・幼児教育センターの開設について～

平成 27 年 4 月に「子ども・子育て支援新制度」が施行され、幼稚園のみならず、保育所、認定こども園等を通じて質の高い保育・幼児教育を提供することが一層求められるなか、平成 29 年 4 月に「大阪市保育・幼児教育センター」を開設しました。

旭区高殿にあった「もと城北市民学習センター」の施設を利用することが決まり、平成 28 年 12 月から、職員体制づくり、館内清掃、机・椅子・ロッカー・機器の搬入等準備に取りかかり、このときを迎えました。スタッフは、私を含め、幼児教育、保育、事務の専門職員、総勢 18 名です。

平成 29 年 3 月に改訂しました「大阪市教育振興基本計画」では、「子どもが安心して成長できる安全な社会の実現」と、「心豊かに力強く生き抜き、未来を切り開くための学力・体力の向上」の 2 つを最重要目標に掲げています。

そして、その最重要目標を達成するための取り組みとして、「全ての基礎となる幼児教育の普及と質の向上」を第一に取り上げ、幼児期における規範意識の育成、幼児教育カリキュラムの浸透と実践、幼児教育・保育に関する研修・研究等の機能を集約した大阪市保育・幼児教育センターの設置等を目標に掲げています。

本センターは、公立・私立の別や、幼稚園・保育所といった施設の種別に関わらず、本市の全ての就学前施設における幼児教育・保育の振興のため、「評価・情報提供機能」「カリキュラム開発支援機能」「教職員資質向上機能」の 3 つの機能を柱として、幼稚園・保育所等と連携しながら、幼児教育・保育に関する調査・研究、教職員・保育士等の研修、就学前教育カリキュラムの普及及び改訂、幼保連携事業の推進、保幼小の円滑な接続に関する研究等を行っていきます。

幼児期は、生涯にわたり、自己実現をめざし、社会の一員として生きていくための道徳心や社会性、知性や体力の基礎を培う重要な時期です。乳幼児期に得た安心感が、自己肯定感や対人関係の形成につながるという調査結果や、良質の幼児教育を受けた子どもには、“学びが更なる学び”をうながす好循環が見られ、就学前、学校、大学、成人の各段階の教育の投資効果を比べると、就学前教育が最も高いという研究結果も出ており、幼児教育の重要性がクローズアップされています。

また、平成 29 年 3 月に改訂されました「幼稚園教育要領」や「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」では、乳幼児期の教育・保育の重要性、教職員による環境づくりや働きかけの重要性、幼小接続の重要性が、一層明確にとなえられています。

すべての子どもが等しく質の高い教育を受けられる環境づくりとともに、乳幼児期の教育・保育の質の向上が非常に大切であり、当センターの果たすべき役割は非常に重要なものです。

当センターが、大阪市の乳幼児期の教育・保育推進の核になるよう、スタッフそれぞれの専門性を生かして、大阪市の保育・幼児教育の新たな第一歩を切り拓ける喜びを共有しながら事業を推進していきたいと考えています。

平成 29 年 4 月

保育・幼児教育センター 所長 阪口 正治